

# 新たな手法によるイメージ向上と 女性の入会促進活動を推進

公益財団法人いきいき埼玉（埼玉県） 就職促進部就業企画担当主査 竹内賢一

埼玉県は、東京に隣接する災害の少ない住みやすい県ですが、七十五歳以上の高齢者人口は日本一速いスピードで進んでいます。このような状況で、高齢者や女性、LGBTQ（性的マイノリティ）など誰もが社会に参画し、お互いを尊重する社会の実現に向けた施策に取り組んでいます。

## 女性会員の拡大が課題 制度の正しい理解が先決

公益財団法人いきいき埼玉（埼玉県SC連合/以下、連合）は、現在、県内五十九のシルバー人材センターで構成しています。令和三年度の事業実績は、契約

金額が約二百九億四千二百四十三万七千円（労働者派遣事業を含む）、会員数は四万六千七百二十二人（男性三万八千八百八十一人、女性一万四千八百四十一人）です。会員数は、平成二十二年度をピークに、漸減傾向にあります。女性の活躍推進の機運は高まりつつありますが、女性会員比率は三割程度にとどまり、その拡大が喫緊の課題となっています。

シルバー人材センターの就業は、庭木の剪定や草刈りなど、男性向きの仕事が多いイメージがあります。このため連合では、シルバー事業への理解を深めるため、普及啓発活動を積極的に推進していま

す。令和四年度は、特に①「生きがい就業」の概念の定着②ブランドイメージの醸成③センターならではの魅力を発信する施策の展開を柱としました。

## シルボンヌ会議を設置 女性目線のアイデアも

少子高齢化が進展する中、地域社会における介護や子育て分野での人材不足は深刻です。こうした状況で、地域の担い手としてのセンター、とりわけ女性会員への期待は大きなものがあります。

そこで連合では、女性職員による「シルボンヌ会議」を新たに設置し、主に女性会員拡大につながる

プロモーションの検討を進めました。構成は、県内の東西南北プロックの女性職員七人に、連合事務局二人を加えた九人です。

令和四年度の普及啓発活動では、同メンバーの意見を採用した事業を展開しています。例えば、生活リズムをイメージしてもらうため、広告内容に女性会員の一日のタイムスケジュールを掲載し、短時間でも働ける女性の姿を描きました。また、就業時間の欄には園児の見



埼玉県SC連合では、埼玉県出身の女優・大場久美子さんをインフルエンサーに起用。郵便局でのポスター掲示とチラシ配架でPRを図っている。

守り、掃除、おやつ配膳など具体的な内容を明記。さらに、就業以外にも、ボランティアやサークル活動を自主的に企画運営し、「仲間づくり」「生きがいづくり」を推進している点を強調するなど、女性ならではの貴重なアイデアを生かしました。

そのほか、山村部を含む全県でのPRを検討する中で、主要駅、だ

けの大規模広告よりも、各市町村に必ず存在する郵便局に着目し、郵便局でのチラシ配架やポスター掲示の案も採用しました。

## 大場久美子さんを インフルエンサーに

このほかにも、①インターネットを活用した広報②インフルエンサーの起用やプロのイラスト作品



令和4年10月23日、埼玉県県民活動総合センターで開催した「大場久美子さんトークショー」（主催：埼玉県SC連合）。写真右が、大場久美子さん

の採用③テレビ・ラジオ・新聞を活用したPR④イベントでのPRなどの取り組みを進めました。特に、シルバー世代にも浸透しつつあるインターネットを活用した広報を意識し、シルバー人材センターのPR用動画（七十秒）を制作。同時に、ニュース配信プラットフォームでの動画配信、パナール広告掲出、ニュースリリースの配信など、ネット広告の手法も取り入れました。

令和四年十月からは、「Hello! Active Silver」働きたい。その想いを、かなえたい。」をキャッチフレーズとして、埼玉県出身の女優・大場久美子さんを連合のインフルエンサーに起用しました。大場さんは、心理カウンセラーの資格を取得し、積極的にカウンセリングや講演活動に取り組んでいることから、女性会員拡大のイメージアップに適任と判断して、起用に至りました。十月二十三日開催の「大場久美

子さんトークショー」では、「無理をせず好きなことを長く続けて。自分ではできない」と思わずできるかもしれない」と前向きに捉え、楽しみましょう！」と話し、聴衆から盛大な拍手が送られました。参加者からは「体が丈夫なら人の役に立ちたい」「六十歳以上でも働ける場があるなら自分の体力に応じて働けるとうれい」といった入会に前向きな声が寄せられました。

## 今後の展開

シルバー人材センターという名称は知っていても、活動内容までは知らない人がたくさんいます。そのような人の元に情報を届け、興味を持ってもらうには、既存の広報では不十分と考え、これまで実施したことのない新たな手法によるPRを心掛けています。

今回の取り組みを通して、一人でも多くのシニアが仲間入りしてくれることを願っています。